

## 花農家創出のきっかけに 生産現場を見学

管内の学生・生徒向けに「花き後継者候補生産現場見学会」を1月29日に開きました。管内の圃場を見学し、生産者との交流による花き就農者の契機創出目的として、昨年度に引き続き2回目の開催です。見学会には、県立農業大学校1年生と菊池農業高校2年生の花きを専攻する学生、関係者ら20人が参加しました。県北広域本部、市町、JA菊池で構成する熊本県花き協会菊池支部が主催。

学生らは、花き部会上田功さん(菊池市)から宿根カスミソウとトルコギキョウのハウス栽培を学びました。栽培管理や経営について積極的に質問し、上田さんとの交流を深めました。

県立農大の山下浩樹さんは「将来、菊池地域で花農家を目指している。栽培についての知識も得ることができ、将来について深く考える良い機会になった」と笑顔で話しました。

企画した県北広域本部担当者は「菊池地域は宿根カスミソウの日本有数の産地。学生に花の魅力を感じてもらい、未来の花農家創出のきっかけになればうれしい」と話しました。営農企画課からはJA研修制度の説明をしました。



上田さんの説明を熱心に聞く学生ら



## カスミソウ研修生育成 他産地から学ぶ



研修生 松岡さん 受入農家 阪本さん

花き新規就農研修生向けの先進地研修を県内で行いました。令和9年に就農予定の研修生と受入農家、JA関係者ら5人が参加。県の花き品評会を視察後、上天草市と宇城市でカスミソウのハウス栽培を見学し、技術などについて知識を深めました。

研修生の松岡大輔さんは「気候条件などで品種や栽培方法も違い、驚きと発見があった。さらに知識を深め、就農の準備に努めたい」と話しました。

花担当の富田指導員は「他産地から学んだことも生かしながら就農につなげてほしい。受入農家の阪本さんと一緒にしっかりサポートしていきたい」と話しました。



生産現場を視察

JA菊池では、新規就農希望者に対する研修事業(新規就農者育成事業)を実施しています。日本一の生産量を誇るカスミソウの産地を守ろうと令和5年度に研修品目を追加しました。産地維持のため、部会員が受入農家として研修生へ栽培技術等を伝承し、関係機関と連携した新規就農希望者の受け入れと育成に取り組んでいます。地域の組合員の皆さまに温かく見守っていただき、新規就農者に対するご指導・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。